

項目			科目		講義形態		
1	職務の理解	6時間	(1)	多様なサービスの理解	通学	3.0	講義及び演習 【講義】 介護職の働く環境、実際の業務内容、他職種との連携など、実例を基に伝えイメージを繋げる。今後、本研修で意欲的に学び、習得するための準備をする。 【演習】 2人1組になり相手の印象やサービスを利用される方々の気持ちをイメージ出来るゲーム形式の演習を行う。
			(2)	介護職の仕事内容や働く現場の理解	通学	3.0	講義のみ 介護保険における、それぞれのサービスの種類、またその仕事内容、メリット、デメリット等サービス内容を理解する。
2	介護における尊厳の保持・自立支援	9時間	(1)	人権と尊厳を支える介護		通信	7.5 通信のみ 尊厳を支えるケアや生活支援の在り方の知識
			(2)	自立に向けた介護	通学	1.5	講義及び演習 【講義】 高齢者の生活のお世話ではなく、自立に向けた要支援、要介護状態の予防、もしくは維持改善を目指した支援であることの重要性と意義を理解する。 【演習】 高齢者体験グッズを身に付け「相手の状態・状況の理解」をする。「どうしたら自立に向けた働きかけが可能となるか、グループワークで話し合い、班ごとに発表する。
3	介護の基本	6時間	(1)	介護職の役割、専門性と多職種との連携		通信	1.0 通信のみ 介護職の業務内容に関する知識、チームケアに関する知識の習得
			(2)	介護職の職業倫理	通学	3.0	講義及び演習 【講義】 介護に必要な理念、関わるものとして優先すべき留意点を学ぶ。社会的責務を果たす覚悟、個人情報を入力することの大切さを学ぶ。 【演習】 グループワークを活用し「サービス業に求められる必須条件」について話し合い、班ごとに発表する。発表内容を遂行するために、自分たちに出ること・必要な姿勢を導き出す。
			(3)	介護における安全の確保とリスクマネジメント		通信	1.0 通信のみ 介護サービスに伴うリスクマネジメントに関する知識を習得
			(4)	介護職の安全		通信	1.0 通信のみ 介護職の健康管理に関する知識を習得
4	介護・福祉サービスの理解と医療との連携	9時間	(1)	介護保険制度		通信	4.0 通信のみ 各法に関する知識及び制度とサービスについての詳細な知識を習得
			(2)	障害者総合支援制度及びその他制度		通信	3.0 通信のみ 介護保険法、障害者総合支援法を中心とした最近の動向(制度とサービスに関する歴史を含む)及びサービス利用に関する知識の習得
			(3)	医療との連携とリハビリテーション	通学	2.0	講義、演習及び通信講習 【講義】 要介護状態となった場合においても医療、福祉連携にて、有する能力の維持、向上に努める事の重要性と意義を理解する。 【演習】 講師が実際、現場で実施しているリハビリを体験する。その後受講生同士2人1組になりリハビリの体験を行う。障害、高齢となっても続く「生きる」を支えるために「機能維持・向上」に向けてのサポートの重要性を学ぶ。
5	介護におけるコミュニケーション技術	6時間	(1)	介護におけるコミュニケーション		通信	3.0 通信のみ コミュニケーションに技法に関する知識。高齢者、障害者(児)の心理に関する知識。介護に関わる専門職種の知識。これらの習得。
			(2)	介護におけるチームのコミュニケーション	通学	3.0	講義及び演習 【講義】 現場で活用している書式を用い、内容・流れを学ぶ。記載する際の注意点を学び、他者との円滑な連携が取れる知識を習得する。 【演習】 ゲーム形式で自己覚知を行う。現場に立つ上で必要な人間関係作りをイメージし、他者との円滑な関係性づくりに役立てる。
6	老化の理解	6時間	(1)	老化に伴うこととからだの変化と日常		通信	3.0 通信のみ 加齢と老化に伴う心身の変化、障害、疾病に関する知識の習得
			(2)	高齢者と健康	通学	3.0	講義及び演習 【講義】 高齢者に多い疾患や生活習慣病や老化について、基本的な理解を通して生活支援の留意点を学ぶ。 【演習】 F&T P.113～145に記載ある「老化による疾患」を知り、それぞれの場合に適切な観察・携わり・報告すべきポイントをグループワークで話し合う。
7	認知症の理解	6時間	(1)	認知症を取り巻く状況	通学	3.0	講義及び演習 【講義】 「中核症状」「BPSD」「MCI」についてを学ぶ。「認知症の方の世界観」を理解できる事例を基に、感情・思いに歩み寄れる育成を行う。 【演習】 認知症体験ゲームや2人1組での回想法体験を通し、利用者の状態や気持ちの理解に繋げる。認知症となっても続く「生きる」をサポートするために必要なコミュニケーション技法を学ぶ。
			(2)	医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理		通信	1.0 通信のみ 具体的な介護や生活援助事例に基づく医学的知識の習得
			(3)	認知症に伴うこととからだの変化と日常生活		通信	1.0 通信のみ 認知症を持つ利用者の心理に関する知識の習得
			(4)	家族への支援		通信	1.0 通信のみ 認知症を持つ利用者家族の生活実態と心理に関する知識の習得
8	障害の理解	3時間	(1)	障害の基礎的理解	通学	1.5	講義及び演習 【講義】 疾患や障害によって生活に支障をきたしている障害者を支える制度や仕組みを学ぶと共に、障害に関する基礎的な理解を深める。 【演習】 DVD観賞後、サポートのあり方・考え方をまとめ、各自発表する。
			(2)	障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかり支援等の基礎的知識		通信	0.5 通信のみ 障害福祉に関する知識、高齢者の介護との違いを踏まえた障害に関する知識の習得。
			(3)	家族の心理、かかり支援の理解		通信	1.0 通信のみ 家族の生活実態を心理に関する知識の習得。
9	こととからだのしくみと生活支援技術	65.0	(1)	介護の基本的な考え方	通学	4.0	講義及び通信講習 ICFを用いた考え方、自己流になりがちな思考・手法が尊厳の保持・自立支援に結びつかないという根拠を学ぶ。
			(2)	介護に関することとからだのしくみの基礎的理解	通学	5.0	講義及び通信講習 老化や、障害に伴う心的症状・感情・意欲低下を知る。生きてゆくことを続けることに障害となる要因など、困難や向き合うために必要な思考・姿勢を学ぶ。
			(3)	介護に関することとからだのしくみの基礎的理解		通信	2.5 通信のみ 生活者支援の視点に立脚した介護方法論の習得。
			(4)	生活と家事		通信	2.5 通信のみ 家事援助の
			(5)	快適な居住環境整備と介護		通信	2.0 通信のみ 生活者支援の視点に立脚した介護方法論の習得。
			(6)	整容に関連したこととからだのしくみと自立に向けた介護 《着脱》	通学	7.0	講義及び実技演習 自身での着脱が困難になる状況、その方の生きる上での生活困難を学びながら、適切な介助方法を習得する。2人1組になり、臥床位での着脱・座位での着脱介助を実技演習する。
			(7)	移動・移乗に関連したこととからだのしくみと自立に向けた介護 《車椅子・杖・ガイドヘルパー》	通学	7.0	講義及び実技演習 (※高齢者体験グッズを装着) 移動・移乗が困難となる状態や疾病との関係性を学び、適切な支援方法を検討する。2人1組になり、近隣公園まで行き利用者の困難を知る。介助に必要なポイントも学ぶ。 (車椅子介助・杖歩行介助・視覚障害者への歩行介助)
			(8)	食事に関連したこととからだのしくみと自立に向けた介護 《食事介助・クロックポジション》	通学	7.0	講義及び実技演習 誤嚥体験。2人1組になり、臥床位での食事体験及び介助。視覚障害者への介助はクロックポジションを目隠しをしながら体験する。
			(9)	入浴・清潔保持に関連したこととからだのしくみと自立に向けた介護 《入浴介助・清拭・足浴》	通学	7.0	講義及び実技演習 肌を露出する相手の気持ち、羞恥を考へながら支援、介助につく方法を学ぶ。2人1組になり、全身清拭の演習。浴槽を使った入浴介助の手順を学ぶ。
			(10)	排泄に関連したこととからだのしくみと自立に向けた介護 《オムツ・リハビリ・PT・イレ》	通学	7.0	講義及び実技演習 排泄介助をされる人の心情、羞恥を考へながら支援、介助につく必要性を学ぶ。2人1組になり、オムツ交換やポータブルトイレ介助の演習。陰部洗浄や清拭、観察のポイントを習得する。
			(11)	睡眠に関連したこととからだのしくみと自立に向けた介護 《体位変換・移乗》	通学	7.0	講義及び実技演習 なぜ睡眠に対する介助が必要なのか、なぜ臥床位からのケアが必要なのか、根拠を学びながら必要な知識を習得する。2人1組になり、仰臥位から右側臥位、仰臥位から起座位・端座位への介助方法を学ぶ。
			(12)	死にゆく人に関することとからだのしくみと終末期介護 《ターミナルケア》	通学	7.0	講義及び通信講習 終末期ケアの基礎知識から、死に至る過程、死を迎える高齢者と家族の心理と支援の方法を学ぶ
				介護実習			
	ホームヘルプサービス同行訪問						
	在宅サービス提供現場見学						
	(13)	介護過程の基礎的理解		3.0	講義及び実技演習 事例に基づきグループワーク。◇その人を知る。◇問題点と課題の抽出。◇必要なケア、必要な観察点を検討。◇提供すべきケアを導き出し、チームでケアプランを作成。		
	(14)	総合生活支援技術演習		7.0	講義及び実技演習 (13)で行った事例検討を基に、実際のケア手法をチームで構築。その後発表。技術習得確認とケアを提供する目標を演習から確認する。		
10	振り返り	4.0	(1)	振り返り		2.0	講義及び演習 研修を通し学んだことを各自発表する。今後現場で活躍するための目標を設定する。
			(2)	就業への備えと研修修了後における継続的な研修		2.0	講義及び演習 今後、介護の仕事に就く上で、継続して学ぶことの大切さ、必要性を伝える。実際の介護現場において、慣れから来る本意な現状を引き起こさないためにも、定期的な研修受講の必要性を伝える。
			130.0		95.0	35.0	